



第 34 号

編集・発行

信州大学附属図書館

繊維学部分館

平成12年1月31日

CONTENTS

雑感	繊維システム工学科 佐藤 弘	(2)
情報と効率と知識	素材開発化学科 川崎 晋司	(4)
スペースオデッセー2000 古書探求の旅 Ramon y Cajal を求めて	繊維システム工学科 桑井 資行	(8)
分館通信 告知板		(15)
分館日誌		(16)
編集後記		(16)

Library(電子版)はインターネットでも提供しています。

URLは <http://shinlif1.shinshu-u.ac.jp/online.html> です。

雑感

繊維システム工学科 佐藤 弘

昨年 12 月に、都立美術館で開かれていた特別展「西遊記のシルクロード……三蔵法師の道」を観た。そこには三蔵法師・玄奘が西天取經の旅で訪れた国々に伝わる仏像の数々が展示されていた。ブッダへの憧憬や崇拜の念がそれぞれの国の宗教や文化と融合して独自の様式を持つ仏像となっていた。それと共に 17 年に及ぶ玄奘の自然の力に身を委ねざるを得なかった当時の旅が如何に困難なものであったかが伺いしれた。

それから 1300 年余の時を経て、確かに旅は楽になり、仏典も仏像も居ながらにして鑑賞することが出来るようになった。動力、交通、通信の発達にともない絶えず多種多様なものが入ってきて、それが個々の内面で熟成するいとまもない程、現代はめまぐるしく変化している。この歳月の間に我々は多くの目に見えない大切なものを失ってきたように思われてならない。これまでも様々な立場から発言されているように、科学・技術は本当に我々に幸せをもたらしたのであろうか。

黒田洋一郎氏は、18－19 世紀に産まれた近代の科学・技術においては「新しいものはすべて進歩」と認識され、それが「10 年、20 年先に危害をもたらすことはないのか」という複眼的、長期的な発想が抜け落ちているのではないかと述べている(1 月 7 日付け、朝日新聞 “科学をよむ” 抜粋)。

確かに、科学・技術は諸刃の剣と言われる一面を持ち合わせているので、科学・技術に携わる人は勿論、実際に利用する人々もそれを誤りなく使わなければ、負の遺産を残すことになりかねない。1960 年代後半の高度経済成長期に大気汚染、水質汚濁、地盤沈下による被害が顕在化し大きな社会問題となったことは記憶に新しい。このような苦い経験と犠牲を教訓として、環境浄化に関する技術開発や啓蒙に力を注ぐようになってきた。ちなみに、98 年度のわが国の総消費電力量はその頃の約 3 倍にまで増加しているにも関わらず CO₂ 排出量は約 2 倍にとどまり、1

～退官に寄せて～

KWh 当たりの排出量は約 40% 抵減している。これは火力発電所の熱効率の向上によるところもあるが、主として原子力発電の発電量の増加が大きな要因である（電気事業連合会 1999）。とはいえ、一方では消費の拡大により排出総量が引き続き増加していることを忘れてはならない。現在も、CO₂ は温室効果ガス 6 種類（二酸化炭素、メタン、亜酸化窒素、HFC、PFC、SF₆）の一つとして更に厳しい削減を迫られている。地球温暖化防止という視点に立てば、確かに原子力発電は有用であろうが、それには将来に亘る二つの問題を解決しておかなければならない。まず、使用済み放射性廃棄物の処理を含む原子力発電に対する国民的合意の形成である。もう一つは、先般の JCO における臨界事故は論をまたず放射性物質の漏れなどが、原子炉を中心とした核燃料サイクルの中で、決して起こり得ないことをソフト、ハード両面から検討されていなければならない。

これら 2、3 の例を考えても現代社会の繁栄は科学・技術の発達と共に、多くの新たな問題を引き起こし、しかも常にその綻びを繕いながら築かれてきた。しかし、このような“繕いの文化”は何時かは繕いきれなくなり取り返しのつかない破綻をきたすのではないかと危惧している。科学・技術は日々発展し、やがては更に進んだものにとって代わられる宿命であるとしても、将来への確かな礎となるものであり、少なくとも次世代に大きな禍根を残すものであってはならない。街角のプラスチック等の山、野山に捨てられている様々な残骸を見るにつけても、このあたりで、安易な消費の上に成り立つ文化のみならず、科学・技術のあり方をも振り返ってみる必要があるようだ。

情報と効率と知識

素材開発化学科 川崎 晋司

この情報化時代にと笑われてしまいそうですが、私はテレビをほとんど見ません。およそ3年前までは夜 9 時からニュース番組をはしごするテレビっ子でしたが「あること」がきっかけであまりテレビを見なくなり、この 8 月からはまったく見ない日がほとんどになりました。

いまは朝食前の朝日新聞が私のおもなニュースソースになっています。上田に来る朝日新聞の最終稿の締め切りはずいぶん早いらしく夜半に起こった事件などは一日遅れで知ることも少なくありませんが、とくにそれで不便を感じるということもありません。

「あること」の前にどうして 8 月からはまったく見なくなってしまったかをお話します。

実は 8 月に引越しをしたのですが、引越し先ではケーブルテレビをつなぐ予定にしておりました。しかし、いざ引越し間際になって調べてみると予想外に初期投資が必要なことがわかり少し迷いましたが接続しないことにしました。工務店の方には「ケーブルテレビにつなぐからアンテナは必要ない」と説明していましたので我が家の屋根の西隅にはケーブルテレビの分配器との接続を待つケーブルがだらりと垂れ下がっています。屋根にアンテナを乗せるよりケーブルをつないだほうがすっきりするだろうとの目論見だったのですが、意に反して不細工なことをしてしまったかもしれません。室内アンテナであまり画質は良くありませんが一応地上波は受信できる状態のテレビが物置部屋にあります。

我が家を訪れる人がリビングにテレビがないこと、物置部屋の室内アンテナが乗った小さなテレビに一樣に驚き、我が家の窮乏生活を推し量って哀れみの表情を浮かべられます。私は慈悲にすがって寄付をお願いしたいのをぐっとこらえて事情を説明します。ついでに幸いなことに「ケーブルだらり」の効果か、NHK のおじさんはまだやって来ていないことを説明します。

「あること」は 3 年前にフランスにいたときの経験です。

滞在先の研究所の人たちの薦めもあって当時 5 歳だった娘を近くの学校に通わせました。しば

らくすると娘はお誕生会などで友人宅に招待されるようになり、私や家内もしばしば同行する機会を得ました。必ずしもすべてのご家庭ではありませんでしたが、何軒かのお宅でテレビが無いことに気がつきました。ある時思い切ってテレビが無い理由を尋ねると、ご両親は明快に「テレビがあると子供と会話する時間が少なくなるから」と答えてくれました。

家内と私はその言葉に大変感銘しました。内心、家内が「実は主人はテレビっ子なんです」と言い出すのではないかと心配しましたが、幸いなことに家内は「テレビっ子」というフランス語を知らなかったようです。

テレビを見ることが少なくなるのと時を同じくして子供たちをつれて上田市立図書館に出かけることが多くなりました。ご存知の方も多いと思いますが市立図書館は子供向けの本が充実しており、8歳と4歳の娘はいつも限度ぎりぎりの10冊を両手に抱えて嬉々としております。私もつられて数冊の本を手に取り週末や就寝前のひとときをこれらの書物と過ごしております。本格長編小説を手にするのは少なく随筆や紀行文など読みっぱなしにしておけるものが中心になっています。どういう訳か手にするのは自分が暮らしたことがある地域に関するものが多くなっています。

日常見たり食べたりすることで知っているつもりでいる身の回りの建物、食べ物、行事に関する断片的な知識がこうした書物を通して整理されるのが楽しいからかなと思います。

『ヨーロッパが面白い』(トラベルジャーナル、紅山雪夫著)は少し古い(1991)のですが、ギリシャ神話、聖書、建築・庭園の歴史を平易な文章で簡潔にまとめるとともに現存する遺跡、美術、生活システムとの関係を紹介していて実に「面白い」本でした。フランスには(に限らず西欧全般のようですが)、キリスト教に関係する祝日が多くありますが、何の日か知っていてもどういう日か知らなかったことに気づかせてくれたり、ただ美しいとだけ思っていた教会建築の仕組みや発展過程、英仏伊の庭園の歴史的関係など渡欧前に知っていたらと後悔さえしました。

玉村豊男は東部町在住のエッセイスト(『エッセイスト』(朝日新聞社))で彼の著作の多くは図書館に所蔵されています。(図書館の検索機には40冊以上登録されています。)まさに晴耕雨読を地でいくような(『晴耕雨読ときどきワイン』(講談社))生活に憧憬の念を抱かずにいられません。

ヴィラデストというおもに西洋野菜を扱う農園を立ち上げる様子を書いた『種まく人』(新潮社)やワイン用のブドウ畑を土作りからはじめさまざまな苦勞の末ワインを手にする顛末を書いた『私の

ワイン畑』(中央公論社)ではフランスと東部町の気候、土質を対比して記述しています。ひょんなことから、私はフランスでワインを作っている人と友人になりその畑や農機具などをみせてもらったことがあり、日本と随分違うなと思ったものの深くは考えずにいましたが、ここでも記憶の断片が知識として定着する喜びを感じました。玉村豊男が東部町の西洋的風景を賛美する一方で『青空哲学』(岩波書店)では北御牧村在住の水上勉は信州の日本の美しさを説いています。どちらもよく理解できるのはやはりこの地に暮らしているからかなと考えます。

図書館を通じてまったく逆の経験もしました。やはり 3 年くらい前のある日、長女が図書館からこどもむけの星座の本を借りてきました。本物をみせてやろうと夜になるのを待って戸外に出たものの星座を見つけるのは容易ではありませんでした。

しばらくして、上田創造館で星空観望会が開かれるのを知り家族で出かけました。20 人あまり集まったでしょうか。空席が目立つプラネタリウムで季節の星座(このときは冬の星座だったと思う)の解説を聞いた後、屋上で望遠鏡をのぞかせてもらいました。この星空観望会は定期的に行われていて私達は都合がつけばなるべく出かけるようにしています。参加者はいつも少人数でたっぷり説明が聞けます。(11 月は、しし座流星群の解説があったためにめずらしくプラネタリウムがほぼ満席になりました。)

この観望会のおかげで私もいくつかの星座を見つけられるようになり、露天風呂で空を見上げるのが楽しくなりました。また、大口径の望遠鏡で土星のリングなどを実際に目で見ると、知識として知っているはずなのに興奮をおさえられません。知識がまぶたに焼きつくと言ったら可笑しいでしょうか？

さて市立図書館へ行くことが多くなったのは良いが、わが繊維学部図書館へはどうでしょうか。無論こちらは我が家のテレビとはまったく関係ありませんが、残念なことに数年前から訪れる回数がだいぶ減ってしまいました。数年前までは「せめて Nature や Science のタイトルぐらいは」と週に 1 度は図書館の階段を上り「せっかくだから」と他の雑誌にも手をのばしました。

しかし、今は上記の 2 誌はもちろんのこと、主要雑誌の最新タイトルは Web 上で見るできるようになりました。Nature, Science にいたっては登録さえしておけば毎週タイトル一覧を E-mail で知らせてくれます。Science のほうはキーワード検索ができ以前より見落としが少なくなりました。図書館に出かけるよりずっと効率的に早く情報が得られるようになったわけです。

先日論文をコピーしにでかけ、ついでだからと新着雑誌のほうに向かいました。

その時ふと『サイアス』(以前の『科学朝日』)に目が止まりました。少し前に知人から『サイアス』に書いたから読むようにとメールをもらっていたのを思い出したのです。うかつにも『サイアス』が図書館にあることを知らなかった私は少しうしろめたい気持ちを抱きながら雑誌を手に取りました。しばらくして、読み流すくらいの軽い気持ちだったのが雑誌に引き込まれているのに気づきました。さらに、その記事に参考文献として載っていた Nature の論文を見に行きガク然としました。毎週目を通してははずのタイトルの多くが記憶に無いのです。焦りにも近い感覚を持ちながら関係する雑誌のバックナンバーをあさる作業に入りました。あまり効率の良いやり方ではありませんが随分多くの研究のヒントをもらいました。これをもってタイトルサービスが良くないなどと主張するつもりは毛頭ありません。うまく表現できませんが情報の受け止め方がまずかったのだらうと思います。

テレビやインターネットから流れ込む多くの情報があり、自分で経験することにより得られる情報があり、それらを整理するための情報があります。「この情報化時代においては研究者は最新の研究動向を効率良く収集することが重要だ」というようなことをよく耳にします。

このような意見はおそらく正論だろうし、うまく反論することもできません。もちろん研究者は情眼をむさぼるようなことはあってはならないし、独善に陥るようなことは決して許されないから、過去の研究情勢を「正確に」把握することは何にも増して重要であることは間違い無いと思います。しかし、「効率が良い」というのはどういうことか今一度自らに問いただしてみたい。

情報を知識や知恵に変換するためには何か工夫が必要なのでしょう。

スペースオデッセー2000 古書探求の旅

Ramon y Cajal を求めて

繊維システム工学科 桑井 資行

Only a Couple of Clicks Away

ちかごろアメリカのニュース番組で *Only a couple of clicks away* という表現をよく耳にします。もともとは、道案内でよく使う *Only a couple of blocks away* 「ほんの2、3ブロック先」という表現ですが、2、3度のマウスクリックで行けるホームページのことをいいます。距離をクリックで測るいかにもインターネット時代らしい表現です。

インターネットの急速な普及でこの10年間に、図書館の情報提供、情報収集の方法も劇的に変わりましたが、だれもが、どこでも、いつでも *Only a couple clicks away* を享受できるようになる西暦2000年のつぎの10年、図書情報の収集・提供の方法はさらに大きく進化することでしょう。

私自身、冬休みに古書を探していてこの *Only a couple of clicks away* 時代の到来をあらためて痛感させられる体験をしました。これがそのレポートです。

あこがれの書 *Textura del Sistema Nervioso* ...

Santiago Ramon y Cajal というスペインの学者をご存知でしょうか。神経細胞と神経回路網の組織の研究でイタリアの Camillo Golgi とともに1906年のノーベル賞を受賞した神経生理学者です。日進月歩の脳神経科学の分野で、いまだにその仕事が広く、頻りに引用される近代神経細胞学の創始者です。

その Cajal の記念碑的著作 *Textura del Sistema Nervioso del Hombre y de los Vertebrados* 「人間及び脊椎動物の神経系組織」が1899年に出版されてちょうど100年になります。昨年12月には出版100周年記念シンポジウムがスペインで開催され、それに合わせるかのように英訳版が Springer-Verlag 社から出版されました。昨年11月の Nautre の書評がそのなかで Cajal の業績について触れているので、一部を紹介しましょう：

.....(出版から)100年も経過し、しかも脳研究の最近の大きな進歩にもかかわらず、なぜこれほど多くの神経生物学者が Cajal の仕事を引用し続けるのであろうか。絶えることのない名声の一端はその卓越した芸術的描写力による神経細胞とその結合の描画によるの

かもしれない。彼の描画は、電子顕微鏡や共焦点顕微鏡でとらえたイメージを最新のコンピュータ技術を駆使して再現した神経細胞や軸索の構造さえ正しく予見していた。彼とともに1906年のノーベル賞を受けた Golgi が発見した染色法がなければその名声はなかったという人もいる。しかし近代神経生物学の創始者としての Cajal の名声はまことに正当であるといわなければならない。彼の深い影響力は、神経系の全体的な複雑さの中にある微細な構造の美とその重要性を認識する驚異的な洞察力、正確さ、そして才能に根ざしているのだから。……

昨年、プリンストン大学の研究者グループが遺伝子操作により高い知能をもつスーパーマウスを誕生させたというニュースが流れましたが、研究の源流をたどってゆくと Cajal が提案した「神経細胞が脳における信号伝達の基本要素であり、記憶は神経細胞間の結合の強さの変化から生まれる」という神経科学の根本原理に行き着きます。また1月の Nature に掲載された、神経組織の成長促進物質を用いて損傷した脊椎と感覚神経細胞の接続を再生し、皮膚感覚を回復する実験に成功した、という報告には Cajal の神経細胞の成長に関する研究が冒頭で引用され、その紹介記事は神経の先端が脊椎の神経に向かって伸びてゆく様子を見事に描写した Cajal のイラストを載せています。

ある神経学者によると、“*Textura*” のフランス語訳は今でも毎年 200 回前後も引用されているそうです。その精緻極まりない神経細胞・神経回路網の細密画は生物学、神経科学の教科書等に広く引用されているのでご覧になった方は少なくないのではないのでしょうか。図は形情報の初期の処理が行われる大脳の 1 次視覚野の組織図です (Ramon y Cajal, *RECUERDOS DE MI VIDA*, 1923)。

このように “*Textura*” は近代神経科学の原点となる画期的書物であるだけでなく、現代に生きる神経科学のバイブルとよぶにふさわしい書物です。ただ、入手することが困難で、実際に手に取ってじっくりと読む機会に恵まれた人は少ないのではないのでしょうか。

視覚神経回路網のイメージ認識機能のモデリングをやっている私も、文献、書物に引用される Cajal の描画に接する機会が多く、“*Textura*” は私にとって一度は手にしてみたいと思い続けてきた憧れの書なのです。モデリングではモデル化の対象となるものをしっかり肌で感じることが極めて大切ですが、Cajal のため息の出るような緻密な神経回路網の描画からは顕微鏡写

真では決して感じることのできない神経回路網というものの本質が伝わってきます。Cajal は回想録を残していますが、その英訳書の復刻版に神経生理学者 Maxwell Cowan は Cajal の芸術的才能について

彼が最初に愛したのは芸術であり、科学ではなかった。父親の思いやりのなささえなければ、ゴヤやベラスケスの伝統を継ぐ画家になっていたかもしれない……その才能がいかに秀でていたかは出版された著作のいずれかを一瞥するだけでわかる。後にも先にも、Cajal のペンとインクの描画に肩を並べるとお世辞にでもいえる神経系の組織図を残した人はだれもいない。

と書いています。こう聞けば、“*Textura*” を手にしてみたいと思うのは私だけではないのではないのでしょうか。

さて、前置きが長くなりました。本題の Only a couple of clicks away に戻りましょう。この Nature の書評がきっかけで、思いもよらぬ憧れの「バイブル」探求のインターネット行脚が始まりました。以下はその記録です。それでは、出発、クリック！

クリック www.amazon.com

訳本とはいえ、憧れの書物が手に入るということで、Springer-Verlag 版をアメリカのインターネット書籍通販 amazon.com に注文することにしました。ホームページの接続に1クリック、検索に1クリック、本の選択に1クリックです。このあと配達法などいくつか項目をクリックし、最後に注文ボタンをクリックして完了。パスワード入力以外はすべてクリックです。

amazon.com は驚くべき数の書籍の在庫をもっているようで、在庫書籍は国際宅配便を指定すれば4～7日で届きます。出版社の異なる9冊の本が注文して4日目に届いたことがあり少なからず驚きました。一般的科学書は2割前後の割引価格が普通ですが、残念ながら純粋の専門書はほとんどが定価販売です。

さて、これで一件落着、と思いきや、実はここからエクサイティングなインターネットオデッセーが始まったのです。

クリック 古書検索エンジン！

Nature の書評によると、これまでにフランス語訳(1909)、フランス語訳からの英訳(1995)が出版されていて、今回の Springer-Verlag 版は原文であるスペイン語からの初めての英訳です。古い訳書、運がよければオリジナルの“*Textura*” が古本市場に出ているかもしれないと思い、ネットで古書店探しをしてみました。ここが Only a couple of clicks away のありがたいところです。

とはいっても世界中に何十万軒もあるであろう古書店、その中から目的の「バイブル」をもっている書店を探し当てるには、どうしよう？・・・とりあえずネット王国アメリカのいくつかのインターネット検索エンジンを使って secondhand book をキーワードに調べた結果、5500 近い古書店の古書在庫情報(公称 1600 万冊)をオンラインで検索できる米国のホームページを発見。著者キーワード cajal で検索すると、計 26 件の著作が数秒で表示されました。画面をスクロールしてゆくと・・・ありました、ありました、お目当ての「バイブル」が2件。一つは Cajal 生誕 100 年を記念してフランス語版を復刻したもの(1952)、もう一つはその英訳版でした。とりあえず、ここにブックマーク、クリック。

他にも古書検索エンジンがないものかと、さらにクリックを重ねると 7 つの古書・新書検索エンジンを束ねた検索エンジンに遭遇しました。cajal で検索してみると驚くなかれ数秒で続々100 件近い著作を検索エンジン別に表示しました。重複リスティングが多数ありますが、Cajal という名前はよほど珍しいのでしょうか、すべて Ramon y Cajal です。

クリック お、お宝発見？

さて、リストをスクロールしてゆくと、ある、ある、ある、お目当てが 4 件も、しかも何とスペイン語版“*Textura*” まで！ も、もしかして Dream Come True？

震える指で、その古書店への接続ボタンをクリック。現れたホームページはスペイン語、あっという間にスペインの古書店へスペース・スリップしていました。Just one click、ホント、すごい世の中ですね。

スペイン語でよくわからないので、検索入力フィールドとおぼしきところに cajal と入れてクリック、即座にお目当ての「バイブル」のページが出現。本に関する記述はさておいて、価格だけはしっかり確認して・・・あんりゃ、数字の後にゼロがお行儀よく整列しちゃって、とっても不吉な感じ。ヒュー、もしかするとこれ、いわゆる稀覯本ちゅうやつなのでは？ そういえば回想録には 800 部しか印刷しなかったと書いてあったよね。(意気瞬時にしぼむ。)

唯一の望みは為替レート。スペイン peseta と日本円の換算率っていくらなの？ 日本の検索エンジンに戻って、こんどは為替レートを検索。これはほんの数クリックでみつかって 100 円＝160 peseta くらい、ということは(懸命に暗算)、エッ、ひよっとすると・・・？ 画面の愛用電卓に数字を

入れゼロの数をしっかりチェックしてから、深呼吸。息をつめ、念力を込めて”＝”ボタンをクリック。ウツソー、amazon.com よりずっと安い！！しかも amazon.com で注文したのは全3巻の第1巻だけ。(心拍数一気に67は上昇)

クリック オープン返信メール

でも、冷静に考えました、「オリジナルがそんなに安く手に入るはずがない、数字の間違いだ、きっと本の面影さえとどめないボロボロにちがいない、でなければ瞬時に売れているはず」(心拍数急降下)。それも一瞬、「いや、これぞお宝発見、掘り出し物、ラッキー」、たちまち極楽トンボに逆戻り(再びハイに。)

すぐさま、価格と本の状態を問い合わせ。英文で不安でしたが、翌日、無事返信メールを受信。メールを選択し、念力を込め、十字を切り(何せ、カトリックの国スペインからのメールですから)、阿吽の呼吸でダブルクリック、オープン……………？

おお、神よ、仏よ、イエス様、「本の状態 excelente、初版、革表紙、価格はホームページの数字」とある。つつ、ついに、夢の「バイブル」、お宝発見(アドレナリン噴出、興奮状態)。あの十字を切ったのが効いたに間違いはない。

冷静、冷静、メールにはほかにもスペイン語でいろいろ書いてある、ここが肝心。なんせ、ネット通販ではいろいろ悪いことも聞いてっからね。それに最近、プリンストン債、足裏診断、トンネル事故、JCO、3党連合、いろいろいかがわしいこと多いしね(このあたり、若干錯乱気味)。

でも、スペイン語の辞書はないし、どうしよう……。

クリック スペイン語翻訳！

ひらめきました、そうです、困ったときのネット頼み。ふたたびアメリカの検索エンジンに戻って今度は翻訳サービスを検索。これはきっと需要が多いのでしょう、ほんとうに a couple of clicks で見つかりました。接続してメールのスペイン語をカットアンドペーストしてメニューから Spanish→English を選んで翻訳ボタンをクリック。ほんの 3 秒くらいで英訳が返ってきました。すごい世の中ですね、ホントに。訳は単語をスペイン語から英語に置き換えたのとそれほど差がないレベルですが内容は理解できます。とくに問題になりそうなことは書いてない……と思いきや、最後に「他からも問い合わせが来ているので、注文するならすぐ返事が欲しい」という血も凍る1行。ハハハ、焦らせて買わせようという魂胆だな、よく使う手だ。知ってたから。

クリック スペイン語で注文？！

でも、夢のバイブル、お宝発見となれば、もう注文するっきゃない。取引条件、送り先等を指定するメールを書き始めて、ハテ、困った。さっきのメールに英語わかんないとあったんだよね、ドーシヨ。言葉の誤解はトラブルのもと、まして相手が外国では…。

ひらめきました、さっきの翻訳サイト。こんどは English→Spanish を選択、書いた英文をカットアンドペーストして翻訳ボタンをクリック、たちどころにスペイン語訳が現れた。ホンマ、すごい世の中でんな。でも、さっきの Spanish→English の翻訳能力を考えると、このスペイン文、はなはだ疑わしいよね。で、試しに表示された訳をこんどは逆に Spanish→English で英文に訳してみると…、ヤ、ヤッ、ほとんど奇跡としか思えない、もとの英文と同じ訳が返ってきた(1語が類義語で置き替わっているだけでした)。ということは、多分、すくなくとも大筋は正しく訳されているということでしょう。よし、よし、注文はスペイン語と英語の両バージョンで作成してと、オーケー、送信ボタン、クリック。

2日後に本を送ったというメールが入り、10 日後に無事パッケージが到着しました。

Cajal のオーラ

手に取るとズッシリと重みが伝わります。くすんだ赤い表紙を開くと内側は小さな赤い十字架の繰り返し模様の装丁です(やっぱりね)。そっと、一枚めくると、だいが黄ばんではいいますが見覚えのあるあのタイトルページが現れました。古書独特の匂いが漂います。ページを静かにくってゆくと、これはもう神経組織の細密画のオンパレードです。2巻 1775 ページに彩色画を含む 887 枚が収められ、ほとんどどこを開いても目の奥が痛くなるような精緻なイラストが現れます。Cajal は作成した神経組織図を印刷するためにリトグラフの技法をマスターしたことをかなり詳しく記述していますが、精密な神経組織図というよりアートとよぶのがふさわしいかもしれません。執筆に精魂を傾けた様子と出版の苦勞が回想録に述べられていますが、Cajal の執念と労苦が紙面から溢れ出て来るようです。

このあと Springer-Verlag の本も届き、奇しくも 100 年を隔てた二組の「憧れの *Textura*」が書棚

に鎮座することになりました。

ネット雑感

スペインのどこかの町の古書店の書棚に収まっている書籍がわずか15分程度のクリック操作で見つけられたというのも驚きですが、古書店のオーナーは突然東洋の片隅日本から舞い込んだ注文に、私以上にネットの威力に驚いたのではないのでしょうか。

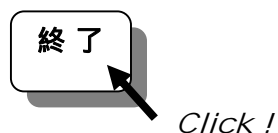
アメリカでは現在、インターネット販売が5年間で10倍という率で伸びていて、西暦2010年までに小売り店の半分は閉店を余儀なくされるという信じがたい予測があるそうです。ネットにつないだ瞬間に市場は世界に広がり、しかも流通コスト抜きの安い価格で売れるのですからそれもうなずけます。ネット販売に「つぶされる」という強迫観念が小売り店をインターネット接続へと駆り立て、それがさらにネット環境を充実させるという正のフィードバックがかかっているのでしょう。いったんこうなると成長は爆発的です。

ネット王国アメリカと比べ、現在の日本のインターネット環境は寂しいといわざるをえません。検索エンジンはあってもヒットする件数が少ないのです。古書の検索エンジンもあることはあるのですが、検索してもほとんど何も出てきません。検索エンジンに商品情報を出している古書店がきわめて少ないのです(イギリス、フランス、ドイツの検索エンジンも少し調べてみましたが、アメリカの充実度には足元にも及ばない印象です)。

ただ、元旦以来、ネット販売を目的とする企業設立のニュースが盛んに報じられ、日本でもいわゆる e-Commerce に火がつく気配が感じられます。「広告、書評を見てすぐネットで注文し、二日後に近所のコンビニで本を受け取る」のが書籍購入の常態になる時代は意外と早く訪れるかもしれません。

最後に、図書館の書籍、特に洋書はインターネット販売を利用して安いところから購入することを検討する時期に来たのではないかと思うのですがいかがでしょう。

それでは、



告知板

ここでは図書館からの最新の情報をお知らせしています。
次号 Library 発行までのお知らせは、Library 号外として構内の掲示板や繊維学部分館ホームページ(<http://shinlif1.shinshu-u.ac.jp>)でご案内していますので、そちらをご覧ください。

⇒ 春季休業中の特別貸出について

春季休業に伴い、下記の通り貸出期間を延長します。

貸出開始日	大 学 院 生	平成12年1月11日(火)	10冊以内
	学 部 4 年 生		8冊以内
	学 部 2・3 年 生	平成12年1月27日(木)	3冊以内
	研 究 生・聴 講 生		
返却期限日	平成12年4月11日(火)		

※ 返却期限日は厳守してください。

※ ただし、卒業生は2月25日(金)までの貸出・返却となります。

⇒ 卒業生の皆様へ

この春卒業予定の学部4年生・M2年生・D3年生に対する図書の貸出・返却期限は **2月28日(月)**までです。必ず期限日までに返却してください。

なお、進学し4月以降も繊維学部^に在籍される方は、図書を借りる時に係員にお申し出下さい。返却期限日を4月11日(火)とします。

今までに借りた図書で返却してない図書がある場合には、図書館入口のブックポストに投函してください。

⇒ 夜間開館の休止について

2月10日(木)～4月11日(火)の春季休業中は、開館時間が短縮されます。

休業中	8:30a.m.～5:00p.m.
-----	-------------------

※ 業務は通常通り行います。

分館日誌

(10月～12月)

10/1	サイエンス・ダイレクト(SD-21)利用説明会	出席者－武田
10/14	図書館次期システム検討 WG	出席者－武田
10/15	第2回図書館運営委員会	出席者－中沢分館長
10/20	第7回図書委員会	
11/9	文献画像伝送システム説明会	出席者－鳴澤、宮下
	学術雑誌総合目録(和文編)全国調査に伴う説明会	出席者－宮下
11/26	信州大学図書館講演会	出席者－武田
12/2	館長・分館長懇談会	出席者－中沢分館長
12/14	全学図書館関係係長会議	出席者－峯村
12/21	第3回図書館運営委員会	出席者－中沢分館長 松瀬運営委員

編集後記

ここ数日の冷え込みはとても厳しいですが風邪などひいていませんか？

今年度最後の Library となりました。今回は今年度いっぱい退官される佐藤先生、そして川崎先生、桑井先生に書いて頂きました。お忙しいところ原稿を書いて下さって本当にありがとうございました。どれもとても興味深い内容となっておりますので是非読んで見て下さい。

次号は4月の発行を予定しています。利用者の皆さんの声も Library に掲載したいと思いますので、ご意見・書評など何でもお寄せ下さい。係員に直接、または E-mail での寄稿もお待ちしております。

E-mail アドレスは、jfg0100@giptc.shinshu-u.ac.jp です。